

情報提供

那医発第 306 号
令和6年10月16日

施設長 各位

那覇市医師会
会 長 友利 博朗
常任理事 宮城 政剛



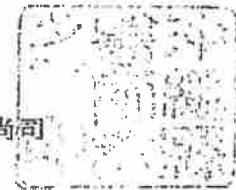
平素より医師会事業へのご支援ご協力賜り感謝申し上げます。
沖縄県医師会より「ルワンダ共和国におけるマールブルグ病に係る注意喚起について」の通知が届きましたのでご案内申し上げます。別紙は当会ホームページに掲載致しますので、お手数ですがダウンロードをお願いします。☆ 問合せ先 (那覇市医師会 事務局:宮城・前泊 /電話 098-868-7579)

記

冲 医 発 第 1000 号
令 和 6 年 10 月 17 日

地区医師会担当理事 殿

沖縄県医師会
理事 仲村尚司



ルワンダ共和国におけるマールブルグ病に係る注意喚起について

今般、日本医師会並びに、沖縄県保健医療介護部感染症対策課から標記文書の発出がありましたのでご連絡致します。

令和6年9月27日、ルワンダ共和国においてマールブルグ病の発生が確認され、同年10月2日現在、36名(うち11名死亡例)のマールブルグ病の確定症例が確認されたとのことです。

アフリカでのマールブルグ病は散発的に発生しており、これまでにウガンダ共和国、ケニア共和国、アンゴラ共和国、コンゴ民主共和国、南アフリカ共和国、ガーナ共和国、赤道ギニア共和国及びタンザニア連合共和国では発生が確認されておりましたが、今回ルワンダ共和国で初めて確認されたとのことです。

その為、医療機関においては、当該地域に渡航された方が受診された場合には、マールブルグ病を念頭に置いた診療を行っていただきたいとのことです。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了解のうえ、貴管下関係医療機関等への周知方につきご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

- ルワンダ共和国におけるマールブルグ病に係る注意喚起について

令和6年10月8日(日医発第1185号(健II))(日医発出文書)

令和6年10月4日(事務連絡)(沖縄県発出文書)

※関係文書は文書管理システムへ掲載致します。

沖縄県医師会事務局業務2課：高良、平良
TEL:098-888-0087
FAX:098-888-0089
g2@okinawa.med.or.jp

日医発第 1185 号（健Ⅱ）
令和 6 年 10 月 8 日

都道府県医師会
感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長
笹本 洋一

ルワンダ共和国におけるマールブルグ病に係る注意喚起について

令和 6 年 9 月 27 日、ルワンダ共和国においてマールブルグ病の発生が確認され、同年 10 月 2 日現在 36 名（うち 11 名は死亡例）のマールブルグ病の確定症例が確認されたことから、別添のとおり、厚生労働省より本会に対して周知方依頼の事務連絡がありました。

アフリカでのマールブルグ病の発生は散発的で、これまでにウガンダ共和国、ケニア共和国、アンゴラ共和国、コンゴ民主共和国、南アフリカ共和国、ガーナ共和国、赤道ギニア共和国及びタンザニア連合共和国で発生が確認されているが、ルワンダ共和国では今回初めて確認されたとしております。

厚生労働省では本件について、引き続き情報収集を実施し、必要に応じて情報提供を行うとともに、各検疫所を通じ、空港などにおいて海外渡航者への注意喚起を行うとしています。

医療機関に対しては、当該地域に渡航された方が受診された場合には、マールブルグ病を念頭に置いた診療を行うようお願いしております。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、郡市区医師会、関係医療機関に対する周知方について、ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

（参考）

厚生労働省 HP マールブルグ病 感染症法に基づく医師及び獣医師の届出について：

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-01-06.html>

国立感染症研究所 HP マールブルグ病とは：

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/343-marburg.html>

事 務 連 絡
令和6年10月3日

公益社団法人 日本医師会 御中

厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課

ルワンダ共和国におけるマールブルグ病に係る注意喚起について

令和6年9月27日、ルワンダ共和国においてマールブルグ病の発生が確認されました。同年10月2日現在36名（うち11名は死亡例）のマールブルグ病の確定症例が確認されています。

アフリカでのマールブルグ病の発生は散発的で、これまでにウガンダ共和国、ケニア共和国、アンゴラ共和国、コンゴ民主共和国、南アフリカ共和国、ガーナ共和国、赤道ギニア共和国及びタンザニア連合共和国で発生が確認されていますが、ルワンダ共和国では今回初めて確認されました。

厚生労働省は本件について、引き続き情報収集を実施し、必要に応じて情報提供を行うとともに、各検疫所を通じ、空港などにおいて海外渡航者への注意喚起を行います。

当該地域に渡航された方が、医療機関を受診された場合には、マールブルグ病を念頭に置いた診療を行っていただきますようお願いいたします。

以上、貴会会員への周知をお願いします。



事務連絡
令和6年10月4日

沖縄県医師会
各地区医師会
各県立病院
琉球大学病院

御中

沖縄県保健医療介護部感染症対策課

ルワンダ共和国におけるマールブルグ病に係る注意喚起について

平素より、本県の感染症対策等にご尽力、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、標記の件について、令和6年10月3日付けで厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課より通知がありましたのでお知らせいたします。

ルワンダ共和国に滞在している間や、同国から入国後、疑わしい症状が出現した場合には、早期に医療機関を受診し、適切な診断及び治療を受けることが重要です。当該地域への渡航歴がある等、疑いのある患者が発生した場合において、管内保健所あてご相談いただくようお願いいたします。また、感染症指定医療機関におかれましては、患者対応に関して、検疫所及び保健所との連携について、ご協力賜りますようお願いいたします。

つきましては、本内容について、関係機関あて周知いただきますようお願いいたします。

沖縄県保健医療介護部感染症対策課
感染症予防班
担当：河野、仁平
電話：098-866-2013
Mail：konotomo@pref.okinawa.lg.jp

事務連絡
令和6年10月3日

各〔都道府県
保健所設置市
特別区〕衛生主管部（局）御中

厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課

ルワンダ共和国におけるマールブルグ病に係る注意喚起について

令和6年9月27日、ルワンダ共和国においてマールブルグ病の発生が確認されました。同年10月2日現在36名（うち11名は死亡例）のマールブルグ病の確定症例が確認されています。

アフリカでのマールブルグ病の発生は散発的で、これまでにウガンダ共和国、ケニア共和国、アンゴラ共和国、コンゴ民主共和国、南アフリカ共和国、ガーナ共和国、赤道ギニア共和国及びタンザニア連合共和国で発生が確認されていますが、ルワンダ共和国では今回初めて確認されました。

ルワンダ共和国に滞在している間や、同国から入国後、疑わしい症状が出現した場合には、早期に医療機関を受診し、適切な診断及び治療を受けることが重要です。各自治体におかれましては、当該地域への渡航者に対して、改めて注意喚起をお願いします。

あわせて、貴管内で一類感染症に感染した疑いのある患者が発生した場合における感染症指定医療機関への当該患者の搬送や当該患者の検体移送に関する手続等について、今一度、確認をお願いします。対応においては、「ウイルス性出血熱への行政対応の手引き（第二版）」（参考1）及び「一類感染症が国内で発生した場合における情報の公表に係る基本方針」（令和2年2月27日付け事務連絡、参考2）に留意いただくとともに、疑似症が発生した場合には、厚生労働省に直ちにご相談いただくようお願いいたします。

また、同様の事務連絡を公益社団法人日本医師会に発出しておりますことを申し添えます。

参考1：ウイルス性出血熱への行政対応の手引き（第二版）

http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisaku_jouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000164709.pdf

参考2：一類感染症が国内で発生した場合における情報の公表に係る基本方針

<https://www.mhlw.go.jp/content/000601059.pdf>

ルワンダで マールブルグ病が発生



ルワンダ

36名(うち11名は死亡例)の確定症例が確認されている。

(令和6年10月2日時点)

マールブルグ病

【感染経路】

コウモリの排泄物を吸い込んだり、接触したときにうつる可能性あり。感染した人(遺体を含む)の血液や体液等に直接接触した際及び性的接触によりヒト-ヒト感染が生じる。

【主な症状】

- ・ 突然の高熱、強い頭痛、全身倦怠感、筋肉痛などの症状が現れる。
- ・ 3病日頃に重度の水様性下痢、腹痛、嘔気嘔吐が生じ、水様性下痢は1週間程度持続する。
- ・ 2～7病日目に無痛性の皮膚紅斑が見られた事例もある。
- ・ 多くの患者で5～7病日頃に出血症状が見られ、吐下血のほか、鼻腔、歯肉、静脈穿刺部等からも見られる。



【これまでの発生地域】

ウガンダ、ケニア、アンゴラ、コンゴ民主共和国、南アフリカ、ガーナ、赤道ギニア、ルワンダ(現在、発生中)

この病気に対する確立された治療法やワクチンは今のところありません。流行地域や動物(特にコウモリ)に近づかないことが重要です。

感染した人の血液や体液、これらに汚染された可能性のあるもの、動物(死体を含む)に触らないでください。

詳しくは
→ → →

検疫所ホームページ FORTH
<https://www.forth.go.jp/>



FORTH マールブルグ病



Outbreak of Marburg virus disease in Rwanda



Rwanda

There are 36 confirmed cases,
including eleven deaths.

(As of October 2 , 2024)

Marburg disease

[Transmission]

It is possible to be infected by inhaling or coming into contact with bat excrement. Human-to-human transmission occurs through direct contact with the blood, bodily fluids, etc., of an infected person (including corpses) and through sexual contact.

[Symptoms]

- Onset of sudden high fever, strong headache, and general malaise, accompanied by muscle pain.
- Severe watery diarrhea, abdominal pain, nausea, and vomiting occur around the third day of illness, and watery diarrhea persists for about a week.
- In some cases, painless skin erythema is observed on the 2nd to 7th days of illness.
- Bleeding symptoms are seen in many patients around the 5th to 7th day of illness, and can be seen from the nasal cavity, gingiva, venipuncture site, etc., in addition to vomiting and melena.



[Previous outbreak areas]

Uganda, Kenya, Angola, Democratic Republic of the Congo, South Africa, Ghana, Equatorial Guinea, Tanzania, Rwanda(**currently occurring**)

There is currently no established treatment or vaccine for this disease. It is important to avoid endemic areas and animals (especially bats).

Do not touch the blood or body fluids of an infected person, anything that may be contaminated with these, or animals (including corpses).

Quarantine station Website FORTH

<https://www.forth.go.jp/>



FORTH Marburg disease



マールブルグ病が発生

ルワンダに滞在した方で体調に
異状がある方は検疫官にお知らせください

マールブルグ病

【感染経路】

コウモリの排泄物を吸い込んだり、接触したときにうつる可能性あり。感染した人(遺体を含む)の血液や体液等に直接接触した際及び性的接触によりヒト-ヒト感染が生じる。

【主な症状】

- ・ 突然の高熱、強い頭痛、全身倦怠感、筋肉痛などの症状が現れる。
- ・ 3病日頃に重度の水様性下痢、腹痛、嘔気嘔吐が生じ、水様性下痢は1週間程度持続する。
- ・ 2～7病日目に無痛性の皮膚紅斑が見られた事例もある。
- ・ 多くの患者で5～7病日頃に出血症状が見られ、吐下血のほか、鼻腔、歯肉、静脈穿刺部等からも見られる。

【これまでの発生地域】

ウガンダ、ケニア、アンゴラ、
コンゴ民主共和国、南アフリカ、ガーナ、
赤道ギニア、タンザニア、ルワンダ
(現在、発生中)

ルワンダ



この病気に対する確立された治療法やワクチンは今のところありません。流行地域や動物(特にコウモリ)に近づかないことが重要です。感染した人の血液や体液、これらに汚染された可能性のあるもの、動物(死体を含む)に触らないでください。

詳しくは

検疫所ホームページ FORTH

FORTH マールブルグ病

→ → →

<https://www.forth.go.jp/>



Outbreak of Marburg virus disease

If you have stayed in **Rwanda** and have any health conditions, please notify the quarantine officer.

Marburg disease

[Transmission]

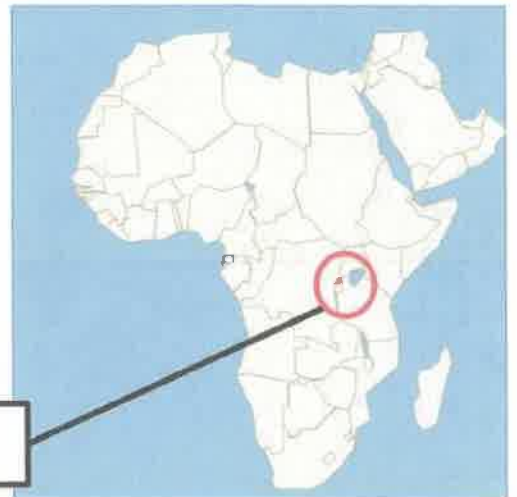
It is possible to be infected by inhaling or coming into contact with bat excrement. Human-to-human transmission occurs through direct contact with the blood, bodily fluids, etc. of an infected person (including corpses) and through sexual contact .

[Symptoms]

- Onset of sudden high fever, strong headache, and general malaise, accompanied by muscle pain.
- Severe watery diarrhea, abdominal pain, nausea, and vomiting occur around the third day of illness, and watery diarrhea persists for about a week.
- In some cases, painless skin erythema was observed on the 2nd to 7th days of illness.
- Bleeding symptoms are seen in many patients around the 5th to 7th day of illness, and can be seen from the nasal cavity, gingiva, venipuncture site, etc., in addition to vomiting and melena.

[Previous outbreak areas]

Uganda, Kenya, Angola, Democratic Republic of the Congo, South Africa, Ghana, Equatorial Guinea, Tanzania, **Rwanda**
(currently occurring)



Rwanda

There is currently no established treatment or vaccine for this disease. It is important to avoid endemic areas and animals (especially bats).

Do not touch the blood or body fluids of an infected person, anything that may be contaminated with these, or animals (including corpses).

Quarantine station Website FORTH

<https://www.forth.go.jp/>



FORTH Marburg disease

